註曰、方法學ノ抄録ヲ簡潔ニスレバ分カラナクナル恐レガ他ノ論文ノ抄録ニ比シ特ニ多イノデ本抄録ハ寧ロ譯文ト云フ程詳細ニ記載シタト思ハレル、尙原著ノ後ロニハ美事ナ寫真ガ數個附ケラレテイルガ、ソレヲ見ルト如何ニ著者ノ述ベタ新方法ガ優秀ナルモノデアアルカヲ知ラシメルニ充分デアルト思フ。

齒科外科

齒科の所置ト最近ノ驅微療法

Paul Ritter: Zahnärztliche Behandlung und moderne

Syphilis-therapie. (Zahnärztliche Rundschau Nr. 6 u. 7

1927)

著者ハ先ヅ冒頭ニ於テ齒科の立脚地ヨリ見タル近世驅微劑ノ口腔ニ及ス影響ノ少カラザルヲ説キ次デ齒科の見地ヨリ最近ノ驅微法ヲ次ノ如ク分類シテオル。

一、迅速、確實ナル作用ヲ有シ且ツ口腔ニ於ル傳染力ヲ除去スルモノ。

二、口腔粘膜、齒牙、竝ニ顎骨ノ障礙ヲ避ケ得ルモノ。

三、齒科の必須療法ニ障礙ヲ及ボサバルモノ。

四、勤勞従事者ニ特別ニ面倒ナル齒牙看護ヲ要セザルモノ。

是等ノ觀察點ヨリ今日用キラレツ、アル驅微劑トシテノ水銀、

蒼鉛製劑、「サルヴァルサン」竝ニ沃度ニ就テ大略左ノ如ク記述シテオル。

一、水銀療法。

總テノ驅微劑中最モ多ク口腔粘膜竝ニ齒牙ニ副作用ヲ示スモノデアアル口腔ニ於ケル水銀中毒ハ種々ノ形トシテアラハレルガ主型トシテハ汞毒性口内炎デアアル。

汞毒性口内炎ハ如何ニシテ來ルカト云フニ細胞毒タル水銀(マイエル、ゴットリプ)ハ齒齦ヲ害シ先ヅ齒頸部周圍ニ有害齒石、食物殘遺、及ビ細菌集落ヲ來サシメ次デ上皮ノ壞疽ヲ招來シ此壞疽性上皮ノ剝離ニヨリ齒齦ノ腐蝕又ハ潰瘍ヲ形成ス。潰瘍ハ豚脂樣苔狀物ニ被ハレ齒齦ハ腫脹ヲ來シ出血シ易ク潰瘍周邊ハ紅暈ヲ示シ潰瘍ノ融合ニヨリ帶狀潰瘍面ヲ呈スルニ至ル。

汞毒性口内炎ハ又獨特ノ臭氣ヲ有シ鑛物味ヲ帶ビ唾液排泄盛ントナル。

合併症トシテ骨膜炎、骨壞疽或ハ牙關緊急ヲ來ス事ガ稀デナイ骨壞疽ハ齒齦又ハ骨膜障礙ニ繼續シテ來ルバカリデナク隣中毒性壞疽ニ於ケル如ク直接水銀毒ノ作用ニヨリ來ル事モアル。

舌ハ常ニ高度ノ舌苔ヲ有シ時ニ褥創性潰瘍ヲ來ス事ガアル殊ニ舌邊緣ヲ侵ス。重症ノ場合ニハ舌ハ實質性腫脹ヲ來シ可ナリ強キ疼痛ヲ訴ヘル。

口腔水銀中毒ノ療法。

一、豫防法。水銀療法ヲナス前ニ齒列ノ修理、口腔清掃、齦齒ノ充填、殘存齒根竝ニ齒石ノ除去ヲ行ヒ水銀療法中ハ口腔保健ニ注意シ頻回ニ過酸化水素又ハ明礬ヲ以テ口腔洗滌ヲ行ヒ禁煙ヲ守リ便通ヲ整ヘ各食事毎ニ「クロールカリ」煉齒磨ヲ以テ齒牙ヲ磨ク。

二、口内炎ニ對シテノ療法、トシテハ輕度ノ加答兒性口内炎ノ時ハ時々過酸化水素、「ミルラン」丁幾又ハ明礬溶液ニテ洗滌シ刺激性食物ヲ避ケ一週三回位齒齦殊ニ齒齦囊ニ沃度丁幾又ハ三乃至五%「クローム」酸又ハ一乃至三%硝酸銀溶液ノ塗布ヲ行フ、重症ノ場合(潰瘍性口内炎)ニハ食事ハ全ク流動物又ハ粥食トナシ沃度加里ヲ除ク他ノ驅微劑ハ全部中止スル(水銀中毒中ハ「サルヴァルサン」モ容易ニ中毒ヲ惹起シ易ク蒼鉛ハ口内炎ヲ劇増スル恐ガアル)。

二、蒼鉛療法。

蒼鉛ハ最近ノ驅微劑デ作用ノ速度竝ニ強力ハ水銀ト「サルヴァルサン」ノ中間ニ位シ口腔ノ微毒ニ對シテハ蒼鉛ハ水銀ヨリ遙カニ優越セルモノガアル即チ口内炎ハ通常稀デアツテモ多クハ輕度デアル。口腔ニ於ケル副作用モ亦蒼鉛ハ水銀ト「サルヴァルサン」ノ中間ニ位スル。

口腔ニ於ケル副作用トシテハ主トシテ二ツノ種類ニ別ツ事ガ出來ル。

一、蒼鉛縁ヲ生ジ齒齦ガ褐灰色ニ變色シ殊ニ乳頭尖端ニ於テ然ルヲ見乳頭ノ浮腫ヲ伴フ。此蒼鉛縁ハ稀ニハ舌ニモ來リ舌尖又ハ舌背ガ斑點狀ニ青色又ハ褐灰色ニ變色セルヲ見ル。著者ハ重症ノ一例ニ於テ舌ノ實質性腫脹ヲ見タ事ガアルト、蒼鉛縁ハ蒼鉛劑(例之「メズロール」)ヲ數回(約七乃至九回)注射後ニ出現スル。

二、シバシバ一般ニ知ラレテル眞ノ蒼鉛性口内炎ヲ起シ重キ潰瘍型ヲ見ル事ガアル、殊ニ濃厚製劑ヲ用ユルトキニ來ル事ガ多イ、始メ浮腫又ハ蒼鉛縁ニ始マリ遂ニ重キ融合性潰瘍ヲ招來ス。

口腔現象ハ蛋白尿及圓鑄尿ト平衡スル事ガアル。

療法ハ水銀性口内炎ニ於ルト同ジデヨイ豫後ハ良イモノガ多い、

三、「サルヴァルサン」療法。

齒科醫ニ取ツテハ最モ氣持チノヨイ療法デ總テノ口腔現象ニ非常ニ迅速、確實ニ作用スル。

口腔及ビ齒牙ニ及ス副作用ガ少ナイ故ニ「サルヴァルサン」製劑(「チオ、ナトリウム」、「チオ」銀「サルヴァルサン」等)ハ微毒性口腔疾患ニ確實迅速ナル療法トシテ推奨シ得ル。

混合驅微法ニ就テ著者ハ自己ノ經驗ヨリ次ノ如ク記載シテオル

即チ良キ口腔清掃ヲ以テセバ「サルヴァアルサン」竝ニ輕量水銀療法ニテハ口内炎ハ頻發セズ「サルヴァアルサン」ト共ニ「カロメル」ヲ用ユルトキハ非常ニシバ「口内炎」ヲ惹起シ「サルヴァアルサン」ト共ニ蒼鉛療法ヲ行フ時ハ單獨ニ蒼鉛療法ヲ以テスルヨリ口内炎ヲ起ス事ガシバシバデアルト。

四、沃度療法

沃度ハ殆ンド口腔ニ副作用ヲ示サナイ故第三期微毒療法ニハ缺クベカラザルモノデアアル唯沃度ニ對シ感受性過敏ノモノニアリテハ口腔固渴ヲ覺ユルト共ニ高度ノ粘膜腫脹ヲ來スモノガアル。

之ヲ要スルニ近時驅微療法ハ殆ンド混合療法施行サル、ヲ常トスルカラ各驅微法ヲ行フニ際シ前以テ徹底的口腔ノ修理（殘根竝ニ齒石ノ除去、齲齒ノ充填、收斂劑ヲ以テスル含嗽）ヲナシ且療法施行中竝ニ施行後ノ口腔所見ヲ觀察スル事ガ必要ダ、特ニ齒齲ヲ煉齒磨（クロールカリ）、糊劑ヲ以テ煉磨スル事ヲ推奨スベキダト記載シテオル。

埋伏智齒下左側顎眞珠腫ノ一例

A. Hauer: Ein Cholesteatom im linken Unterkiefer unter einem retinierten Weisheitszahn.

(Zschr. f. Stomat. XXIV. Nr. 1. 1926)

X線像ニテハ水平智齒下ノ下顎ノ腫瘍タルヲ示シ其大イサ約無

漏子大、境界明瞭ニシテ菲薄ナル被層ヲ以テ圍繞サレタル無構造透過性ナルヲ以テ最初ハ囊腫ト診斷サレタ。

所ガ智齒ヲ拔去シタルニ殆ンド顎骨緣ニ達シ得ル開口ヲ見下顎隅角緣ヨリ第一大白齒ノ遠心緣ニ及ブ空洞ヲ形成シ注意深キ搔把ニヨリ「アスベスト」様白色ニシテ光澤アル物質ヲ取出シタ。

此者ノ顯微鏡的所見ハ密ナル重複層板波狀層ガ全ク無構造物質ヲ被ヒ「エオジン」ニ著明ニ紅染シ所々線狀又ハ斑點狀ニ凝縮シテオル。是等ノ所見ハ興味アル暗示ヲ認知スルモノニシテ此物ハウイースチル、及ビルートリン氏ガ名ケタル眞珠腫ト確診シ得タ稀有ナル症例デアル。

保存療法科

「アマルガム」充填ヨリノ水銀消失ニ關ス

ル實驗

(Versuch über die Quecksilberabgabe von Amalgamfüllungen. Paul Schönbauer, Zeitschrift für Stomatologie Heft

3 1927)

著者ハ三段ニ分カツテ實驗シタ。

一、閉鎖屈曲「ガラス」管内ニ於ケル觀察。充填物ハ九十三日乃至百四十二日間放置シ、然ル後「ガラス」管ヲ開キテ水銀量ヲ定量